



1/10スケール
Nゲージ鉄道模型車体キット 7000 組立V6, D50(本体箱, BOX)

九州全域 (2009年現在, 大分では見られません) で
活躍している, 緑色の箱型クロスシート交流電車2両。

完成には以下の他社製品が別途必要です。別にお買い求めください。

■動力ユニット 下記のいずれかを選択

A) グリーンマックス製DT50動力ユニット

やや台車間が短いものの, 床下機器は組立加工で取り付け可能。

B) 211系電車の動力ユニット (トミーテック製分売品など)

台車間距離は, これが一番スケールに近いのですが, 床下機器
の取り付けは非常に面倒であり, またトレーラー台車によって
高さを揃える兼ね合いもあるので, 下記も参照しご確認ください。

C) 鉄道コレクション用20m動力ユニット

台車間距離はやや短めです。この動力の場合, ギャボックス
が干渉してしまうので, 先端部に車体マウントカブラーを取り
付けるのはかなり困難になります。

■台車 グリーンマックス製DT150 (黒) で代用

かなり形が似ています。取組は良いグレー塗装。
なお, グリーンマックス動力を用いる場合は, トレーラー台車の最下部ですが
上記の台車の動力の場合, クモハ車体取組が難しくなってしまいますので,
クモハ車体も軽はずかしくする必要があります。しかし台車取組の目安では
車体取組の目安と準拠してまいります。この場合「ATC取組の目安」
【台車の中心ピン位置への改造対応は必須】。または「鉄道コレクション受組組
組立」もぜひ読んでおくほうが良いでしょう。台車取組で入手できれば, 動力も
を選択する際は, トレーラー台車はこれらを用いたほうが取組になります。

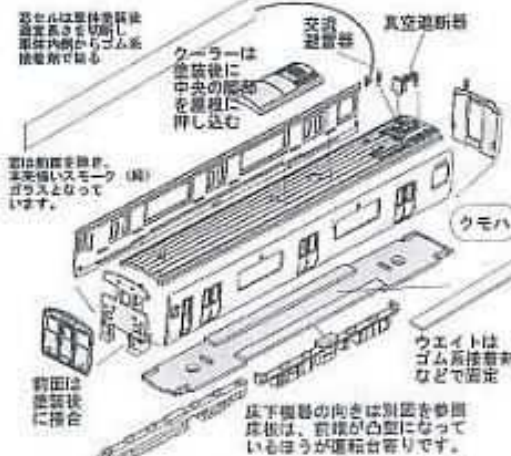
■パンタグラフ (交流用シングルアーム, 885系用など)

885系または, 880-1000系用のパンタグラフが入手できれば良いですが,
入手難の場合, 0-4227などで作り, 端子高さが異なる点だけで, ほぼ取組可能です。
0-4227を用いるための基本仕様パンタグラフ取組手順書もご一読ください。

■その他, 塗装および組立に必要な工具や材料。

工具は, ニッパー, カッターナイフ, ヤスリ,
それにプラモデル用接着剤, ゴム系接着剤などが必須です。
塗料は必ず, プラモデル専用塗料をお使いください。

組立となるので, 仕上がりの際に黒などが存在に目立つので
ご面倒でも, 黒色の塗料はペーパーがけして仕上げていただ
くと, 印象が良くなります。



■2
ランナー部分に, 部品名や番号の刻印はありません
(コスト削減のため)。上図と左図や, 全体の側面図
などを参照して, どれがどの部品と組み合わせるのか
を, よく検討してご理解いただいております。ニッパーな
どで部品の切り離しを行ってください。
真空遮断器, 交流遮断器, 自動機は1個のみ使用, 余ります。

材質表示: 本体: プラ(P) 中軸: プラ(P) ウェイト: 鉄
針線, 銅針線: 銅 水転写カラー: 白紙+印刷機

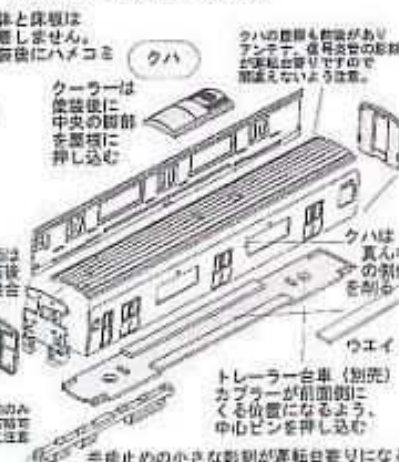
▲ 注意表示 必ずお読みください。

■部品は製造時に部品の割れや変形, ショット面, 欠けや凹み,
腐食などがないよう検査済みです。取組前に必ず各部品の状態を
よく確認し, 必要に応じて補修してください。
■部品は製造時に部品の割れや変形, ショット面, 欠けや凹み,
腐食などがないよう検査済みです。取組前に必ず各部品の状態を
よく確認し, 必要に応じて補修してください。
■部品は製造時に部品の割れや変形, ショット面, 欠けや凹み,
腐食などがないよう検査済みです。取組前に必ず各部品の状態を
よく確認し, 必要に応じて補修してください。
2009-09-14: 505
製造/有償製作/リターン: ください
青森県津軽郡津軽市東山1-1-11 kitayuki (by/k)
kitayuki@nifty.jp
http://www.kitayuki.jp

このキットは, 初心者向けの製品ではありません。
基本的な組立に関しての詳述は省略しておりますので
ご了承ください。組み立てを開始する前に必ず,
全文をお読みいただき, 内容を把握してください。
少量成型の特性から, 一部に修正が必要な成型品
が発生する可能性がありますので, あらかじめ
ご理解願います。



■1
上図を参考に, 部品内容の不足がないか確認して
ください。不足や破損のある場合は上記製造元へ
ご連絡ください。
プラ成型品は, 表面の成型割れを落とすため予め
中性洗剤などで洗浄してください。



組立で接着固定する前に
各部品毎に調整を。

→クハ前面のみに付く自動機ですが
成型条件の都合, ニッパーで切り離すことが
難しくなっております。
このパーツに関しては, ランナーから切り離す
際に, カッターナイフで, 軽く角度も切り込む
ようにして, 切り離すようにしてください。
ニッパーで無理に行うと, パーツが割れます。

また, 車体側の楕圓凹みに合致するタブが
無断なく前面に収まるよう, タブ左右を削り
調整してください。
この自動機パーツの加工が面倒な場合は, 省略
しても違和感はありません。

→交流遮断器は, 成型時に樹脂の流れ
が芳しくなかった影響で, 取付部が
やや太くなってしまっています。
ランナーから切り離す際の時点で,
取付部を少し削り削って, 屋根への
固定に支障がないよう調整してくだ
さい。
市販完成品の交流電圧用の同じ機器
を転用するほうがシャープかもしれませんが,
それでは推奨していません。

■3
ゼロハンターなどを用いて仮組みしてみても, 干渉するバリ
などがあれば削り (必要な箇所を削ってしまわないよう注意
してください) 切断したゲート部分をヤスリでキレに修正
してから, プラモデル用接着剤で部品どうしを固定します。
屋根板の向き (信号機や列車無線のあるまうが先頭部) や
クモハとクハとのWDの有無, 屋根の差しなどに注意。
床板と車体は接着せず, 塗装後にハメこみます。

■4-A
GM製DT50台車と
GM製動力ユニット併用場合
実車はかなり低速なのですが, 模型
では市販品の車軸径がほぼ決まってい
ることもあり, 現時点で最も入手容易な
GM製DT50を用いる前後として, 車体高
をスケールより高い位置に設定しました。
動力に低い位置に固定する際, リブが
長い箇所は床下機器を適宜切除。

■4-B
211系などの完成品用の動力分売品を
用いる場合
側面図のリブは, ほぼ全て除去します。
動力は両面テープで固定してください。

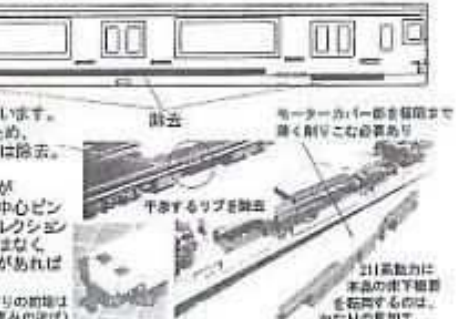
■5
この加工をすると, GM製DT50のトレーラー台車は車体端と台車上部が
余裕なく干渉してしまうため, 台車はKATO製DT50系の分売品 (ただし中心ピン
方式へのボルトが改造と, 集電板の干渉回避改造が必要) か, 鉄道コレクション
製知床100+200(1) 尺ちぞん鉄道1000+1100(1) いずれも台車分売品はな
くお手元にそれらを動力改造した糸切が備えている場合に限りDT50系があれば
それらを用いてください。

■5
GM動力につける床下機器は上面のリブを全て削る

■6
この加工をすると, GM製DT50のトレーラー台車は車体端と台車上部が
余裕なく干渉してしまうため, 台車はKATO製DT50系の分売品 (ただし中心ピン
方式へのボルトが改造と, 集電板の干渉回避改造が必要) か, 鉄道コレクション
製知床100+200(1) 尺ちぞん鉄道1000+1100(1) いずれも台車分売品はな
くお手元にそれらを動力改造した糸切が備えている場合に限りDT50系があれば
それらを用いてください。



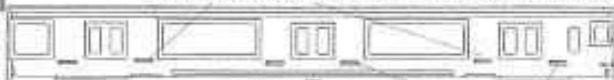
側面をつうから見た図
床板抜け止めの爪
完成した状態において枕木長手になる方向に
やや厚いので, この爪表面の肉がなくなる程度
まで削ると, 床板の装着が比較的容易になります。
削りすぎに注意。
GM製20m動力ユニットを用いる際は, この抜け止め
は削り, 両面テープで動力を固定。



211系動力は
本車の床下機器
を転用する際は,
かなりの重量が
かかると予想され
ます。

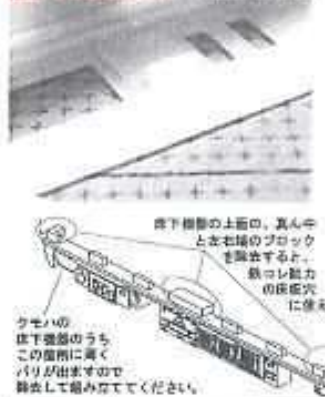


この位置の位置決めガイドは、車高0.5mm下げるとき使用 (M70番車など)



■4-0
鉄道コレクション用20m動力を使う場合
位置決めガイド
トレーラーにGM歯車を装着する

動力組込み車は、動力の幅が狭いので、側板の裏面にあるリブは除去せずOKです。真中央の抜け止めタブは、鉄コシ動力の保持にもそのまま使えます。戸袋部のウラにある三角状の突起は、左上の高さのように、この突起の上端に沿うよう、適度な厚みのプラ材を接着すると、動力ユニットの高さ確定タブとなります。成型時に、深さが大きく塗面がヒケるのを回避するため、かような手法に、4-0記述の方法で車体高を下げることも可能です。



クモリの低下機器のうちこの箇所は高くバリが出ますので除去して組み立ててください。

ボキョウハウス製AMMT「ま17基ボキョウ」発売V1.5の製造型やドア窓のスキーク、窓ガラスの小さな突起など等々の大きさを押し直したものを、工作経験者向けオプションです。

少量の木工用ボンドなどを塗付けして固定。前面の白文字は、窓ガラスの裏面に貼り付けると気がしやすいので、高く立った前面部に直接貼り、その上から窓ガラスで押さえます。



■5
経験者向け重加工
スカートを活かして車体マウントカブラーを運転台寄りに用いる

重加工となりますので、加工についてはユーザー各位の自己責任でお願いします。カブラーの販売元さまなどへのお問合せも一切しないでください。

まずカブラーの合座を上下に分解し、網受け裏面のある箇所の前縁を切り取ります。内側のガイドリブから削り落とす程度まで切り取って動作機能に問題は内側ませんが、材質の特性から割れやすいので、切断はさわめて慎重に行ってください。カブラー本体を組み入れて台座上下をセットしてから、台座の上下を分解しないよう接着剤を塗布して、右側面のように左右を斜めに削ります。上下爪部まで削れるので接着剤をしておかないと機能が使えなくなってしまうので、斜めに削るのは、スカート内側との干渉部を可能な限り削り落とすのですが、カブラーを右側に支障せぬよう、確認作業を繰り返して慎重に行います。

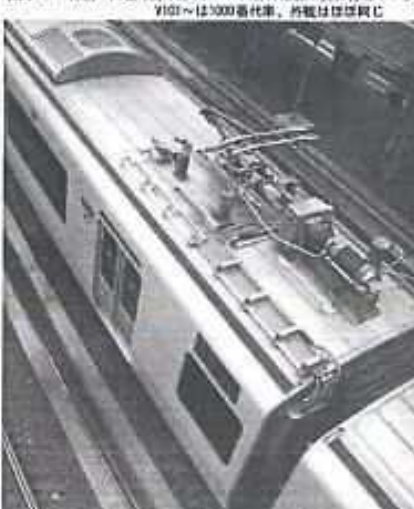
かなり面割なので、自信のある方以外は加工を避けてください。クハ自動巻との干渉を避けるため、床板の前側カブラー取付爪位置は、通常設定より順にせし戻しています。

■6
組立後、再び中性洗剤で洗浄。乾燥してからプラモデル用塗料で塗装してください。塗装後に窓ガラスを適宜切断して、ゴム系接着剤で車体内側から貼り付けます。

車体全体が基本、アルミシルバー。先述は併せておきますが、若狭、乗務員扉および乗務員扉周囲の凹み部は、やや濃い銀に見えますので、こだわって塗り分けても構いません。屋根も銀ですが、ツヤはかなり消えています。前面にははば黒、車体との接続部の凹みも黒で、顔縁状の部分だけシルバーグレイ。前面スカート部も黒です。屋根上の一際色入っている箇所は、ランボード状の滑り止めになっているので、濃いグレーが黒。クーラーも銀。高圧降下は白に、塩害対策用塗料で塗りがって見えます。真空断熱器の四角い箱や、無縁アンテナ本体、端子台などはグレーです。配管のうち一番大きいものはグレーに一部黒。細部マーキングがかなり多く、ドア脇とドア上、窓下、前蓋などたくさんなので、図と塗色を参考にデカールを貼って仕上げます。ドア窓付き、運転台横窓のフチなども黒。床下はダークグレーが、全換上り以外には黒なのか区別がつかません。

成型限界の都合で、高圧配管は省略しています。自信のある方は、左写真を参考に、真空断熱器を中心に顔縁などで再現してください。屋根はとくに艶消しに見えます。

- B17系所属区 一時期は大分にも所属 (のち熊本へ) 崎サキ (赤) V20~31
- 本テクノ北テクノ (黄色) V1. 14. 15. 18. 19. 101~114
- 鹿カコン本カコ (黄) V2~11
- 鹿クマ (緑) V12. 13. 16. 17 * V15. 17は緑+黄の特殊マーク V101~は300番代車。再転写は同色



ガラスのプレス抜きの精度の関係で、貫通扉の下端は省略されています。

前側面長穴はテールライト。レンズはありませんが内側面にクリアレッドで内照りさせます。

窓ガラスの裏面に白文字を貼ります。窓ガラスの裏面に白文字を貼ります。窓ガラスの裏面に白文字を貼ります。

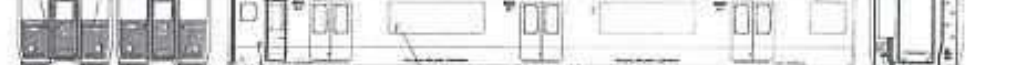
組立後、再び中性洗剤で洗浄。乾燥してからプラモデル用塗料で塗装してください。塗装後に窓ガラスを適宜切断して、ゴム系接着剤で車体内側から貼り付けます。

■7
側面ならデカール貼り省略

以下新の場合、戸袋部の地味なマークは、いずれも車高から「高転写」に貼り付け。



前面窓の組込みにある印刷面の文字は、左列1列目も、「先述が文字列の上方向」になるよう記載。長崎編成だけ、緑は黄色。



スピードカーデカールに黒線表示あり。オーバーラップにも黒線表示あり。パンタの向きは、パンタの向きに注意。



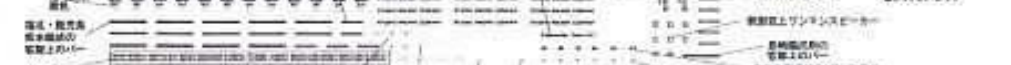
スピードカーデカールに黒線表示あり。オーバーラップにも黒線表示あり。パンタの向きは、パンタの向きに注意。



スピードカーデカールに黒線表示あり。オーバーラップにも黒線表示あり。パンタの向きは、パンタの向きに注意。



スピードカーデカールに黒線表示あり。オーバーラップにも黒線表示あり。パンタの向きは、パンタの向きに注意。



スピードカーデカールに黒線表示あり。オーバーラップにも黒線表示あり。パンタの向きは、パンタの向きに注意。



スピードカーデカールに黒線表示あり。オーバーラップにも黒線表示あり。パンタの向きは、パンタの向きに注意。



スピードカーデカールに黒線表示あり。オーバーラップにも黒線表示あり。パンタの向きは、パンタの向きに注意。



スピードカーデカールに黒線表示あり。オーバーラップにも黒線表示あり。パンタの向きは、パンタの向きに注意。



スピードカーデカールに黒線表示あり。オーバーラップにも黒線表示あり。パンタの向きは、パンタの向きに注意。

■8
組立後、床板と車体のハメコミ



抜け止めタブをばさみこんでから床板を前にスライド

分解するとき後部台車を引き上げるように床板を浮かせ、後方にスライドさせる

■9
デカールについて



デカールについて。高転写の貼り付け方。高転写の貼り付け方。高転写の貼り付け方。

高転写の貼り付け方。高転写の貼り付け方。高転写の貼り付け方。